

小林和史 MUSISUM ー造形昆虫思考ー

7月10日(木)～22(火)

水曜休廊 12:00-19:00 (最終日は17:00まで)

Gallery リトルハイ

東京都中野区中野 5-52-15 ブロードウェイセンター4F 464-2号

Tel 050-3597-7222

Mail info@little-high.com

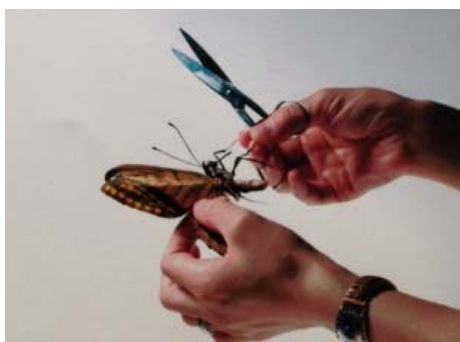
<http://www.little-high.com/>

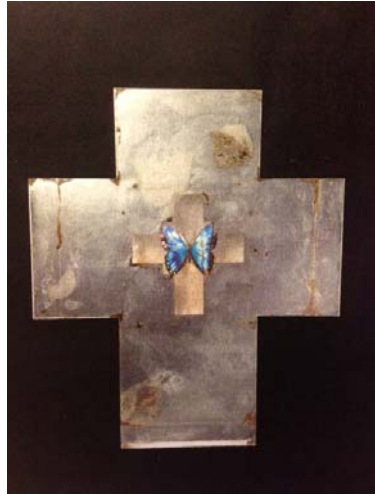


企画/制作 YUKI-SIS (寺嶋)

info@yuki-sis.com yuki-sis.com

03-5542-1669 090-8513-2271





小林和史 MUSISUM —造形昆虫思考—

造形作家、舞台美術演出、コンテンポラリーダンス、舞台、映画等のコスチュームデザイン、映画監督など、幅広い分野で世界的に活動している小林和史。

いくつもの仮面を持つ小林だが、今回の展覧会では活動の原点ともいえる、“造形作家”としての彼にスポットを当てる。

3歳の時より独学で“一枚の紙とハサミ”により昆虫の居る宇宙を創作。少年時代に没頭した、昆虫と自分、昆虫のいる宇宙は、その後の創作活動に大きく影響する、独自の“自然感”を彼に植え付けたという。

今回の展覧会タイトルは「MUSISUM」。勘のいい方ならすぐに気づくであろう、MUSHI(虫)とAnimism(アニミズム)をかけあわせた造語で、回文にもなっている。

アニミズム(英語: animism)は、生物・無機物を問わないすべてのものの中に靈魂、もしくは霊が宿っているという考え方。(Wikipediaより引用)

「人間は終始、自然の一部でしかないと思う…それは人類の文明を見ても解る筈、寧ろ、進歩するだけ自然に還ろうとしている。その様な観点からすれば、人間も昆虫もまるで同じ存在だと思うんだ。

だったなら、視点を変えて、昆虫の立場になって人間界を眺めたってイイ訳だよね。僕は子供の頃からずっとそうしているんだよ。でも人間でいるコトは難しいね…」

マイクロな彼の創造する昆虫世界では、人間はどのように映るのだろうか。小林がはさみをいれる一つ一つの触角、足、前翅、後翅など、どうしてこんなに美しい、完璧な造形物を神がつくったのか、作家の制作過程を想像するだけで驚嘆してしまう。この宇宙にただ存在する造形昆虫の思考・宇宙の意味を、見るものは考えずにはいられないのである。



Artist Note

MUSISUM…「虫は僕である…」

小林和史

創作の基本は、一枚の紙から鋏によって即興で切り抜き立体に折り上げる作業です。リア

ルに仕上げる事は、僕自身が自然や宇宙を体感する為の儀式とも云えます。

生命の持つ一瞬の輝きと感動が創作のテーマであり、作品には神話の彩る詩的なストーリ

ーが秘められています。

この些細な紙の虫達はまるで人間の如く、この小さな舞台を演じているのです。



[作家略歴]

1983 株)三宅デザイン事務所入社。三宅一生氏のアシスタントデザイナーとしてパリコレクション、空間演出、ライセンスデザイン等の仕事に携わる。独立後、アーティストとしてジャン

ルを越えた活動を開始する(outsect 設立)。各地で個展、イベントを展開。また「自然」や「身体性」をテーマにコスチュームデザイン、空間演出、舞台、映像、CM等のトータルデザインを手掛ける。

近年の活動

1995 軽井沢 日動画廊 (個展)

1995,1996 新宿 伊勢丹 Fine Art salon (個展)

1997 古川美術館 (しつらえ展)

1998 サンクリノ美術館(エミール・ガレ×小林和史)

2003～メゾン エルメス(銀座、大阪、仙台) 作品、美術演出

2004～2010 SONY ディーラーズコンベンション、作品、美術演出

2010 銀座 SONY ビル、作品、美術演出

2011 現代工芸アートフェア(東京国際フォーラム)

2012 BARBAR RUETZ Galerie an der Pinakothek der Moderne(Munche) (個展)

2013 ZOMER Galerie (Knokke Belgium) Art Fair

2013 AXEL PAIRON Gallery (Antwerp Belgium) (個展)

2013 六本木アートナイト(リッツカールトンホテル) 作品、美術演出

2014 六本木アートナイト(リッツカールトンホテル) 作品、美術演出

コレクション

U2

Ron wood (Rolling Stones)